

令和4年度 大学の世界展開力強化事業 審査結果表

大 学 名	東北大学	主な交流先	英国
事 業 名	レジリエントな社会を創造する日英米大学の国際連携		
海 外 の 相 手 校	ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン、ヨーク大学、イーストアングリア大学、ワシントン大学		

〔評価コメント〕

本事業計画は、東日本大震災の被災地にある総合大学の特性を生かして、自然災害、感染症等の災害にレジリエントでかつ心豊かに暮らせる未来社会を目指す明確な目標のもとに、英国3大学と米国1大学と連携して多彩な教育プログラムを実施することにより、レジリエンス社会の創造と国際展開の実現を担うグローバル人材の育成を目指すものである。これまでの多くの実績に基づき、高校生リクルート、JV-Campus を活用したオンライン講義と短期の海外研修を取り入れた「グローバル・レジリエンス・マインドセット」を涵養する教育プログラム、レジリエント社会実現に資する高度専門人材育成プログラム等、それぞれの学生の段階に合わせた多彩なプログラムが計画されており、特に、大学院プログラムを新たに立ち上げ、UCL とのジョイント・ディグリーの実施を目指す点が高く評価できる。さらに、学生の発達段階に合わせて、学生主体のプログラムも体系的に準備されている。これまで、SGU を含むグローバルプログラムを実施してきており、外国人留学生の受入れ及び日本人学生の派遣のための環境整備は十分に行われており、全学的体制でプログラムの運営が行われることになっていること等から、実現性が高いと思われる。

しかし、これまでの実績を考慮すると、交流人数をもう少し増やすことが可能であるだろう。特に、米国との交流人数が多く計画されているが、英国との交流人数を増やしていくことが望まれる。また、個別の大学間との調整は進んではいるものの、連携大学をつなぐネットワークについては、まだ協議が進んでいないように見受けられることから、今後、大学間のネットワーク形成を進めていただくことを期待したい。

最後に、今回選定された貴学においては、将来の我が国と相手国との関係を見据え、質保証を伴う国際教育連携の先導的モデルに中心となって取り組む拠点大学であるということの意義とその責任、期待の重さを認識し、事業内容の実現に向け真摯に取り組まれることを強く要請する。また、本事業は、補助期間終了後は自立的に事業を継続することが前提とされていることから、継続的かつ発展的に質保証を伴った事業を展開されたい。